

株式会社船橋リサイクル



社内外にサポート体制

方にも仕事をしてもらおうと
考えたそうです。

株式会社船橋リサイクルは、グループ会社からの移籍組もあつて、現在9人の知的障害のある方が働いています。勤続20年ほどの方が多く、勤続31年になる方もいます。

皆さんから「定年後も、ここで働きたい」と言われ、その対応を検討していると代表取締役の鮫島広行さんは言います。

「みんなの仕事を中心に」

知り合いから頼まれて雇用するケースが多く、中には重度障害のある方も4人います。しかし、障害の程度に関わらず、基本的には「指示することが理解できる人」は採用しているそうです。

仕事は、回収したビン、缶、ペットボトルの選別。各部署に分かれ、

「作業をよく理解しているので任せられます」と鮫島さん。

中には、発語が不自由な方もいますが、周りの仲間が、その方の気持ちまで「通訳」してくれるそうです。

「フォロー体制が万全」

社内には、業務上の管理をする担当と、生活面まで見ている指導員がいます。指導員の山崎高子さんは社会福祉士の資格を持ち、以前もグループ会社で障害のある方の指導をしていました。

現在、彼らと一緒に働きながら、健康面のチェックまでできるようにしています。また、昼休憩には各家族との交換ノートを記入します。「一つの仕事を覚えたらきっちり長く続けることは得意。皆さんは『プロフェッショナル』です」と話します。

また、グループ会社内では、障害のある方の就労支援を目的とするN



PO法
人を立
ち上げ
ていま
す。そ
の中に
あるグ
ループ



所在地：船橋市小野田町
業種：再生資源処理
従業員：40人
障害者：9人



鮫島広行代表取締役

「おとどろ」の会では、本人や家族も加入し、月1回の定例会や年1回の旅行などで、家族ぐるみでの付き合いをしています。こういう支援が、「長く働きたい」という気持ちにつながるのでしょう。

勤続31年の神農健幸さんは、普段はビンの選別をしています。人手が足りない時は他の部署に応援に行くことができるほどベテランです。軍手の上にゴム手袋、さらに軍手を重ね、「けがをしないように仕事をしています。割れたビンは、危ないのでも触りません」と、危機管理の指導が行き届いています。

「安全に働いてもらうため」

- ★ 専任の指導員を置き、障害のある方の状態を把握できる体制が整っている。
- ★ 障害のある方を、多数、長期に渡り雇用している。

審査委員
評価
ポイント



三和商事株式会社

学校保健用品を扱う

三和商事株式会社は、学校保健用品や防災備蓄用品を扱っています。特別支援学校に納品に行った際、職場実習を打診されたことから、受け入れを決めました。5年ほど前のこととす。

実習は2週間。学校の歯科・耳鼻科検診に使う器具を消毒や、防災備蓄商品の梱包などをしていったそうです。

「初めて来た実習生が、とても手先が器用だったので、卒業を機に採用しました」と、所長の倉持 晃さん。



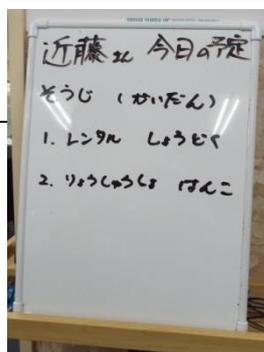
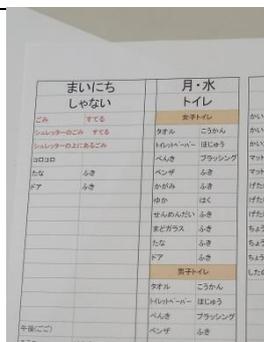
わかりやすいマニュアル

その後も、特別支援学校からの実習は何度か受け入れていたそうです。

新しい仕事を任せる

この会社で働くようになった近藤孝政さんの業務は多岐にわたります。

実習でも高い評価を得た「器具の消毒」は、今は完全に彼に任されています。器具を数えて梱包、伝票の判押し、それに毎日の社内の清掃もします。時には、納品車に乗って荷下ろしを手伝うこともあるとか。倉持さんは、「できそうなことは、まず本人にできるか聞きます。チャレンジする意志があれば任せますが、難しいようならやり方を工夫したり次の機会にまわしたりと、彼のプレッシャーにならないようにしています」。



業務指導をする土肥裕美さんは、「初めてのことは詳しく説明し、見本を作って教えます。どうやったら彼が理解できるか考えます」と、心掛けていることを教えてくださいました。仕事に没頭するあまり、感情的になって独り言をいうこともあったそうですが、「最近は感情のコントロールができるようになった」そうです。

理解しやすいマニュアル作り

近藤さんは、漢字を読むのが苦手。そんな彼のために、土肥さんと管理担当の高橋智教さんは、いろいろな工夫をしました。

社内の清掃は、曜日で場所を決め、ひらがなで表にまとめました。毎日、朝礼後に読み上げて確認します。

また、その日の業務は小さなホワイトボードに書き、わかりやすくしています。

こういった工夫は「試行錯誤しながら、ここ2年くらいでできたものです」と土肥さん。以前は声に出して



倉持 晃 所長(左)、土肥裕美さん

所在地: 海神町南
業種: 保健衛生用品卸
従業員: 20人
障害者: 1人

規模の小さい会社で雇用

先月、船橋に本社を移し、支社と2事業所を持つ三和商事株式会社ですが、従業員は20人。障害のある方の法定雇用率の対象ではありません。それでも、障害のある方を温かく見守りながら、雇用の定着をしている事業所です。

商品数を教えていた近藤さんですが、数が多くなると混乱してしまったそうです。そこで土肥さんが、「並べると数がわかるシート」を作り、解決しました。

審査委員
評価
ポイント

- ★ 法定雇用率対象外の企業であるが、継続して障害者雇用をしている。
- ★ 本人にわかりやすいマニュアルを作成し、働きやすい環境を整備している。



株式会社鈴徳 船橋営業所

船橋営業所初の受け入れ

株式会社鈴徳は、金属スクラップなどを手掛けるスズトクグループのひとつとして、金属リサイクルや産業廃棄物処理を行っている、創業12年の企業です。

児玉営業所(埼玉県)では、3年ほど前から障害のある方を雇用しています。

船橋営業所でも、児玉と同様の作業をしており、「障害のある方も貴重な人材」と考えて、昨年度、雇用の受



け入れを始めることになりました。

しかし、営業所として初めての経験で、「障害特性は?」「どこで紹介してもらえるのか?」など、わからないことばかり。児玉営業所で障害のある方と働いていた、竹崎 賢所長の経験を参考にしようです。

回収した資源の分別作業で、特別支援学校向けの見学会を開き、そこから実習希望者が出ました。精神障害のある高等部3年生です。

実習を積極的に受け入れ

職場実習から雇用

実習は、回収した空調設備の配管から断熱材をカッターナイフを使って外す作業。人の手をかけなければできない部分です。集中して作業をする生徒の様子に、「これなら雇用できるのでは」と、竹崎所長をはじめ現場の皆さんも思ったそうです。障害のある方と接した経験のない社員がほとんどでしたが、「指示通り、真面目に集中してこなすので、安心して」(竹崎さん)。



その後、別の特別支援学校の実習(知的障害)と、ハローワークのトライアル雇用も受け入れ、今春、ふたたび採用しました。

少しずつレベルアップ

現在、ふたりは配管の銅管をカットしたり磨いたりする作業をしています。この作業により、回収した資源のリサイクルの効率が上がります。会社は、今後この部門に力を入れる方針だそうです。

現場でふたりの指導するのは3人の社員。その中でも吉元政己さんは、ふたりとも確実にレベルアップしていると感じています。「分別する種類が多いので、判断しやすいものを任せていますが、少しずつできることが増えていきますよ」。

一番大事なのは「けがをしない」といふ竹崎所長は、「トラックやフォークリフトが構内を通るので、作業場を壁で囲んで、安全エリアをわかりやすくしました」と言います。

他社に取り組みを紹介

スズトクグループ「環境社会報告書」では今年度、株式会社鈴徳の障害者雇用の取り組みを紹介する記事を掲載しました。グループ内他社だけではなく同業種やそれ以外の企業の目に触れるものです。

「児玉や船橋の雇用例を参考にしてみたい」と、竹崎所長は願っています。

今後も受け入れを進める

今年度も、特別支援学校から実習を受け入れている船橋営業所。「できれば別の選別作業でも数人の雇用をしたい」そうです。

「そのためには、雇用してからも特別支援学校や支援機関、行政等と密に連絡を取り、フォローを求めながら進めるのが安心できます」と竹崎所長は話しています。



竹崎 賢所長(中)、指導役の吉元政己さん(右)と穂積賢人さん

所在地: 日の出
業種: 金属リサイクル
従業員: 27人(全社130人)
障害者: 2人(全社5人)



- ★ 特別支援学校などから、積極的に職場実習を受け入れている。
- ★ 障害者雇用に係る取り組みを、グループ企業や業界団体などに広めている。

審査委員
評価
ポイント